

沖縄ブロックにおける社会資本整備重点計画(原案)

現状と主要課題

- ・観光が経済のリーディング産業。今後増加する航空需要やクルーズ船への対応、道路ネットワークの整備、那覇都市圏の交通混雑の解消が必要
- ・台風常襲地域のため暴風雨や高波、局地的大雨により大規模な土砂災害や浸水被害により財産に甚大な損失
- ・本土復帰後に急速に整備された社会資本は老朽化が進行しており塩害対策や耐震補強を含めた適切な維持管理が喫緊の課題

沖縄ブロックの将来像

(1)人・モノ・資金・情報が活発に行き交う活力ある沖縄の実現
 <活力・交流>

(2)豊かな自然環境と調和する人に優しいエコアイランド沖縄の実現
 <環境・暮らし>

(3)安全で安心して暮らせる沖縄の実現
 <安全・安心>

(4)既存施設の戦略的メンテナンスの推進
 <維持管理・更新>

(5)社会資本整備を支える建設業の担い手確保・育成と生産性の向上
 <人材確保等・生産性向上>

社会資本整備の重点目標とプロジェクト

【重点目標】

(1)人・モノ・資金・情報が活発に行き交う活力ある沖縄の実現

(2)豊かな自然環境と調和する人に優しいエコアイランド沖縄の実現

(3)安全で安心して暮らせる沖縄の実現

(4)既存施設の戦略的メンテナンスの推進

【プロジェクト】

沖縄の特性をいかした
 世界水準の観光・リゾート地形成

臨港・臨空型産業の集積による国際物流拠点形成、
 国際交流拠点形成、観光・リゾート地形成

道路交通円滑化・利便性向上による
 産業振興、観光・リゾート地形成

駐留軍用地跡地の迅速かつ効果的な利用

生物多様性を保全し、人と自然が共生する社会の実現

環境負荷の小さい、低炭素・循環型社会の構築

健康で快適に暮らせる生活環境の確保

災害に強い国土の構築と防災・減災体制の強化

安全安心な生活や離島定住のための生活環境の確保

地域特性に応じた社会資本の戦略的な維持管理・更新

メンテナンス技術の向上と効率的な
 維持管理・更新の推進

重点目標1. 人・モノ・資金・情報が活発に行き交う活力ある沖縄の実現

- ・プロジェクト1-1:沖縄の特性を活かした世界水準の観光・リゾート地形成
- ・プロジェクト1-2:臨港・臨空型産業の集積による国際物流拠点形成、国際交流拠点形成、観光・リゾート地形成
- ・プロジェクト1-3:道路交通円滑化・利便性向上による産業振興、観光・リゾート地形成
- ・プロジェクト1-4:駐留軍用地跡地の迅速かつ効果的な利用

【主要取組の主な記載内容】

【選択と集中の徹底】

<平成30年度までに事業が完成予定>

■ 港湾機能の強化

【中城湾港 新港地区国際物流ターミナルの整備(沖縄市、うるま市) (H27年度工事中)[H28年度完成]】

【那覇港 泊ふ頭地区旅客船ターミナルの整備(那覇市) (H27年度工事中)[H29年度完成]】

【石垣港 新港地区旅客船ターミナルの整備(石垣市) (H27年度工事中)[H30年度完成]】

<H32年度までに事業が完成予定>

■ 空港機能の強化

【那覇空港滑走路増設事業(那覇市、豊見城市) (H27年度工事中)[H31年度完成]】

【那覇空港国際線ターミナル地域再編事業(那覇市) (H27年度工事中)[H31年度完成]】

■ 親しまれる港湾空間の形成

【中城湾港泡瀬地区(沖縄市) (H27年度工事中)[H32年度完成]】

<H30年代完成予定>

■ 臨港道路の整備

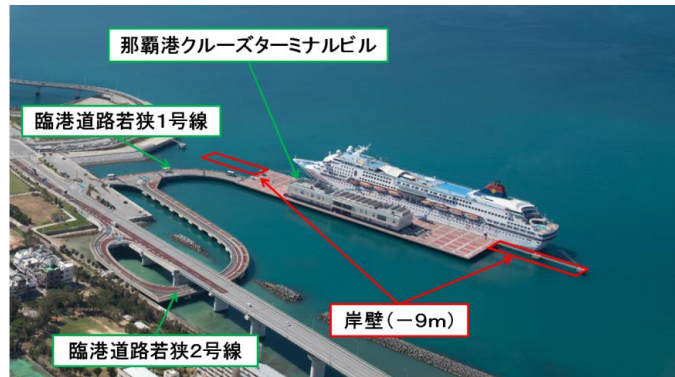
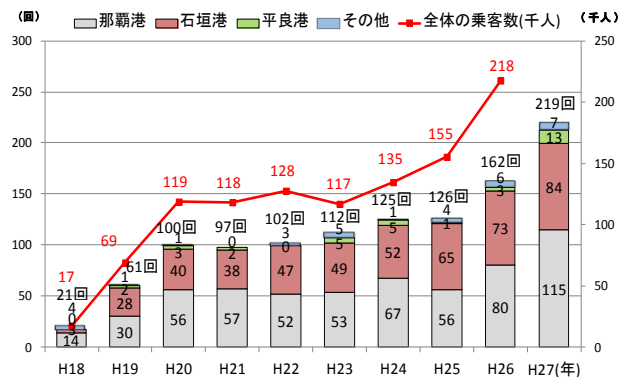
【那覇港 新港ふ頭地区臨港道路(若狭港町線)(那覇市) (H27年度測量設計中)[H30年代完成]】

【KPIや主要な指標】

・滑走路増設を図った後の滑走路処理能力
(那覇空港)13.5万回/年→18.5万回/年

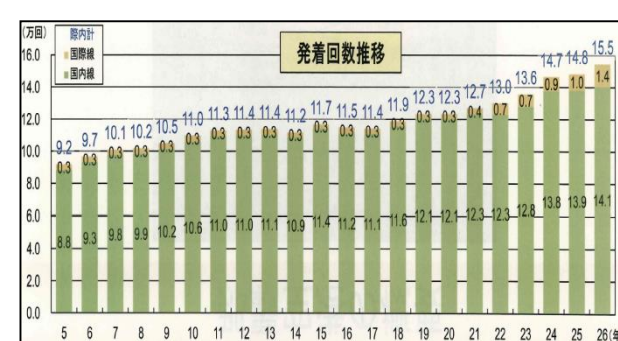
主要取組の事例・期待されるストック効果

那覇港 泊ふ頭地区旅客船ターミナルの整備(那覇市)

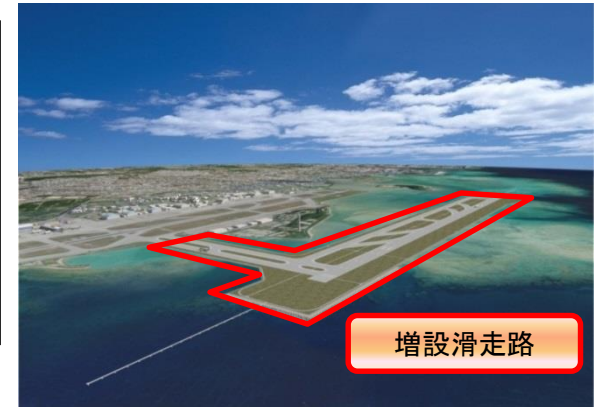


▲ 那覇港へのクルーズ船寄港回数と乗客数の推移

那覇空港滑走路増設事業(那覇市、豊見城市)



▲ 那覇空港への発着回数推移



増設滑走路

※沖縄へのクルーズ船寄港は年々増加傾向

※上海からの旅客船の場合は1寄港当たり約6.3億円の直接的経済効果が見込まれる

- ◆大型旅客船に対応した施設整備により、更なる旅客船の受入が可能となる見込み。
- ◆アクセス道路(臨港道路若狭2号線)の整備により、市街地へのアクセスが向上し、旅客の利便性が向上。

※那覇空港の発着回数は年々増加傾向

※将来の航空需要が対応可能となることが見込まれる

- ◆滑走路増設によって、滑走路処理能力が向上する。
- ◆滑走路増設によって、年々増加する観光客、貨物需要への対応が可能となり、利用者の利便性向上と空港機能強化を図られる。

沖縄ブロックにおける社会資本整備重点計画(原案)

プロジェクト2-3:健康で快適に暮らせる生活環境の確保

重点目標2: 豊かな自然環境と調和する人に優しいエコアイランド沖縄の実現

- ・プロジェクト2-1:生物多様性を保全し、人と自然が共生する社会の実現
- ・プロジェクト2-3:健康で快適に暮らせる生活環境の確保

・プロジェクト2-2:環境負荷の小さい、低炭素・循環型社会の構築

【主要取組の主な記載内容】

【選択と集中の徹底】

<H30年度までに事業が完成予定>

■ 中心市街地の再構築

【農連市場地区防災街区整備事業(那覇市) (H27年度工事中)[H30年度完成]】

<H30年代完成予定>

■ 景観・環境・利用に配慮した都市形成の推進

【国場川広域河川改修事業(那覇市他) (H27年度工事中・用地取得中)[H30年代完成]】

【県営沖縄県総合運動公園都市公園事業(沖縄市、北中城村) (H27年度工事中)[H30年代完成]】

■ 歩道植栽による緑陰やゆとりある歩行空間の確保等

【城間前田線街路事業(浦添市) (H27年度工事中)[H30年代完成]】

【真地久茂地線外1線街路事業(那覇市) (H27年度工事中)[H30年代完成]】

<完成時期未定>

■ 景観・環境・利用に配慮した都市形成の推進

【**国営沖縄記念公園都市公園事業(那覇市、本部町) (H27年度測量設計中・工事中)**】

■ 安全・快適でゆとりある道路空間の創出

【**一般国道329号無電柱化推進事業(金武町) (H27年度測量設計中)**】

【**一般国道331号津波古地区安全対策事業(南城市) (H27年度測量設計中・用地取得中)**】

【KPIや主要な指標】

〔1〕公共施設等のバリアフリー化率(再掲)

・特定路外駐車場のバリアフリー化 【H25年度 17.3% → H32年度 33.8%】

・特定道路におけるバリアフリー化率 【H25年度 74% → H32年度 約100%】

・都市公園における園路及び広場、駐車場、便所のバリアフリー化率

【園路及び広場:H25年度 36%→H32年度 65%】

【駐車場:H25年度 60%→H32年度 75%】

【便所:H25年度 46%→H32年度 60%】

〔2〕景観計画に基づき取組を進める地域の数(市町村数)(再掲)

【H26年度 22団体→H32年度 33団体】

〔6〕水辺の賑わい創出に向け、水辺とまちが一体となった取組を実施した市町村の割合

【H26年度 6%→H32年度 50%】

主要取組の事例

■ 景観・環境・利用に配慮した都市形成の推進

国場川広域河川改修事業(那覇市他)

【施策の方向性】

- 安全・安心で豊かな暮らしを支える川づくり
- 清らかな流れと良好な水環境に向けた川づくり
- 自然豊かで生物や人に優しい、憩いのある川づくり



BEFORE



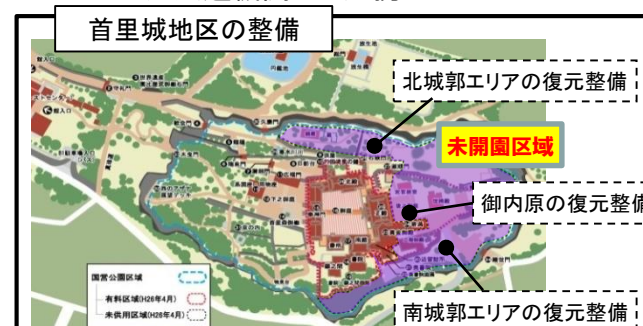
AFTER

■ 景観・環境・利用に配慮した都市形成の推進

国営沖縄記念公園都市公園事業(那覇市)

【施策の方向性】

- 首里城地区(国営区域)の完成整備に向け、工事を促進。
- 来園者へのサービス向上に向けた施設整備、運営維持管理を図る。
- 周辺地域、まちづくりとの連携の強化
- 公共交通機関との連携



- 国営沖縄記念公園は、沖縄の歴史・文化の拠点、観光の中核としての役割を担っている。
- 平成4年度に開園した首里城正殿をはじめとし、現在約6割(国営公園区域)が開園済み。
- 公園区域全域の開園に向けて、未開園区域の復元整備を実施中。

重点目標3: 安全で安心して暮らせる沖縄の実現
 ・プロジェクト3-1: 災害に強い国土の構築と防災・減災体制の強化
 ・プロジェクト3-2: 安全安心な生活や離島定住のための生活環境の確保

【主要取組の主な記載内容】

- 【既存施設の有効活用やソフト施策の推進】
- 最大クラスの洪水・内水・津波に対応したハザードマップの作成
 【洪水・内水・津波浸水想定区域図の作成及び洪水・内水・津波ハザードマップの作成の推進 (H27年度推進中)】
 - 広域的な救援活動を支援する地理空間情報の整備・更新・提供
 【発災後、速やかな被災地域の空中写真撮影の実施及び関係機関への提供並びに電子国土基本図の整備、更新、提供 (H27年度推進中)】
- 【選択と集中の徹底】
- <平成30年度までに事業が完成予定>
 - 耐震強化岸壁の整備
 【平良港 漲水地区複合一貫輸送ターミナルの整備(宮古島市) (H27年度工事中)[H29年度完成]】
 - <平成32年度までに事業が完成予定>
 - 通常砂防
 【東屋部川通常砂防事業(名護市) (H27年度用地取得中)[H31年度完成]】
 - 水害・土砂対策
 【那覇市公共下水道整備事業(浸水対策)(那覇市) (H27年度工事中)[H32年度完成]】
 - <平成30年代完成予定>
 - 浸水対策
 【国場川広域河川改修事業(那覇市他) (H27年度工事中・用地取得中)[H30年代完成]】
 - <完成時期未定>
 - 地震・台風災害対策
 【一般国道58号無電柱化推進事業(宜野湾市) (H27年度測量設計中・工事中)】

- 【KPIや主要な指標】
- [7]最大クラスの津波に対応したハザードマップを作成・公表し、住民の防災意識向上につながる訓練(机上訓練・情報伝達訓練等)を実施した市町村の割合
 【津波: H26年度 - → H32年度 100%】
 - [8]最大クラスの洪水・内水に対応したハザードマップを作成・公表し、住民の防災意識向上に繋がる訓練(机上訓練・情報伝達訓練等)を実施した市町村の割合
 【洪水: H26年度 -% → H32年度 100%】
 【内水: H26年度 -% → H32年度 100%】
 - [9]人口・資産集積地区等における河川整備計画目標相当の洪水に対する河川の整備率及び下水道の都市浸水対策達成率
 【河川整備率(県管理): H26年度 約65% → H32年度 約75%】
 【下水道による都市浸水対策達成率: H26年度 約55% → H32年度 約57%】
 - [10]要配慮者利用施設、防災拠点を保全し、人命を守る土砂災害対策実施率
 【H26年度 約16% → H32年度 約24%】
 - [11]土砂災害警戒区域等に関する区域指定数
 【指定: H26年度 約946区域 → H32年度 約1,191区域】
 - [12]災害時における海上からの緊急物資等の輸送体制がハード・ソフト一体として構築されている港湾(重要港湾以上)の割合
 【H26年度 0% → H32年度 100%】
 災害時における主要な管渠及び下水処理場の機能確保率
 【管渠: H26年度 約42% → H32年度 約55%】
 【下水処理場: H26年度 約22% → H32年度 約28%】
 ハード・ソフトを組み合わせた下水道浸水対策計画策定数
 【H26年度 1地区 → H32年度 2地区】
 - [13]重要港湾における港湾の事業継続計画(港湾BCP)が策定されている港湾の割合
 【H26年度 0% → H28年度 100%】
 - [14]TEC-FORCEと連携し訓練を実施した県数
 【H26年度 0県 → H32年度 1県】

主要取組の事例

■最大クラスの洪水・内水・津波に対応したハザードマップの作成
 洪水・内水・津波浸水想定区域図及びハザードマップの作成を推進

■地震・台風災害対策
 一般国道58号無電柱化推進事業
 【施策の方向性】
 ○緊急輸送路等、防災上重要な経路のネットワークを早期に構築
 ○整備完了箇所の入溝・抜柱状況の進捗確認を行い、安全・快適な通行空間を早期に確保
 ○主要観光地の良好な景観形成にむけた無電柱化を推進

